

教科目名 機械力学 (Mechanical Dynamics)

学科名・学年 : 機械工学科 5年

単位数など : 必履修 2単位 (前期1コマ, 後期1コマ, 学習保証時間 45時間)

担当教員 : 軽部 周

授業の概要				
<p>機械力学とは機械の振動に関する学問である。機械の高度化・複雑化が著しい現在、機械の動的最適化を行う必要から、これに指針を与える機械力学の重要性が高まっている。本教科では、機械をモデル化して運動方程式を導出し、固有振動数などの情報を得る手法について学習する。また、共振現象の知識、モード解析の手法などを学習し、機械の動的設計および解析に必要な基礎知識を習得することを目的としている。</p>				
達成目標と評価方法		大分高専目標 (B2), JABEE 目標 (d1④) (g)		
<p>(1) 種々の1自由度系について運動方程式を導出することで、機械工学の基礎が理解できる。(定期試験と課題) (2) ラグランジュ方程式を学習することで、エネルギーの観点から振動現象を理解できる。(定期試験と課題) (3) 共振現象、動吸振器、モード解析など、機械の動的設計に必要な知識を得ることができる。(定期試験) (4) 演習問題を通して理解を深めるとともに、継続的な学習ができる。(課題)</p>				
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検	
1	第1章 振動と振動学		【理解の度合い】	
2,3	1.1 振動問題の工学的取り扱い 1.2 振動データのフーリエ解析	○振動問題の例を説明できる。 ○振動問題の工学的な扱い方を理解できる。 ○パワースペクトルの意味を理解できる。		
4,5	第2章 線形1自由度系の振動	○減衰のない1自由度系の運動方程式を導出し、固有振動数を計算できる。		
6,7	2.1 減衰がない自由振動 ・演習問題 2.2 減衰がある自由振動	○安定、漸近安定、不安定を説明できる。 ○減衰固有振動数、減衰比を計算できる。		
8	前期中間試験			【試験の点数】 点
9	前期中間試験の解答と解説	○自由振動から減衰比を導出できる。		【理解の度合い】
9,10	2.3 減衰の評価 ・クーロン摩擦	○クーロン摩擦について理解できる。 ○エネルギー法で固有振動数が計算できる。		
10,11	2.4 エネルギー法 ・ラグランジュ方程式	○強制振動の運動方程式を理解できる。 ○ラグランジュ方程式を利用できる。		
12-14	2.5 強制振動	○回転機械の振動絶縁を理解できる。		
15	前期期末試験		【試験の点数】 点	
	前期期末試験の解答と解説			
16	2.6 インパルス応答とステップ応答	○インパルス応答、ステップ応答を理解できる。	【理解の度合い】	
17,18	2.7 周波数応答関数	○周波数応答関数を理解できる。		
19,20	2.8 振動伝達率	○共振、危険速度を理解できる。 ○ハーフパワー法で減衰比を導出できる。		
21,22	第3章 線形多自由度系の振動 3.1 多質点系の運動方程式	○振動伝達率を理解できる。 ○運動方程式のマトリクス表示ができる。		
23	後期中間試験		【試験の点数】 点	
24	後期中間試験の解答と解説	○サスペンションを持つ4輪車の運動方程式を導出し、非線形化できる。	【理解の度合い】	
24,25	3.2 剛体系の運動方程式	○剛体系の運動方程式を導出できる。		
26,27	3.3 動吸振器	○動吸振器について説明できる。		
28,29	3.4 モード解析	○振動数方程式、モード解析を理解できる。		
30	後期期末試験		【試験の点数】 点	
	後期期末試験の解答と解説			
履修上の注意	講義の途中でもわからなくなったらすぐに質問してよいことにする。		【総合達成度】	
教科書	下郷 太郎, 田島 清瀬 共著, 「振動学」, コロナ社。			
参考図書	鈴木浩平 編著, 「ポイントを学ぶ振動工学」, 丸善。 井上喜雄ら 共著, 「振動の考え方・とらえ方」, オーム社。 三船博史 著, 「振動の解析」, 東京電機大学出版局。			
関連科目	非線形解析学, 工業力学, メカトロニクス			
総合評価	達成目標の(1)~(4)について、4回の試験と課題で評価する。 定期試験の成績(80%)およびレポート・課題の提出(20%)により評価する。 また、授業態度により評価点からその20%を上限として減点しこれを総合評価とする。総合評価が60点以上を合格とする。			【総合評価】 点